

令和7年度 学校評価書

東温市立西谷小学校

令和8年2月10日

- 1 学校の教育目標 心豊かにたくましく生きるにしだにっ子の育成
- 2 経営の基本方針 健康で明るく主体的に学ぶ児童の育成

	評価項目	評価の観点	評価（4段階）			考察及び改善策（○：考察、●：改善策）	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校への対応	1	生徒指導体制づくりを行い、アンケートや教育相談、家庭との連携等をもとに、児童の心の状態の把握に努め指導に生かした。	3.6	3.7	3.9	○「いじめ・不登校対応」について、全教職員が連携を図って児童の様子をしっかりと見取ったり、学校生活アンケートを活用したりして、心配な児童への早期発見・解決に努めた。また、本人の教育相談とあわせて、家庭への連絡を密にし協体制を整えながら対応することができた。引き続き、常態的・先行的生徒指導が行えるよう努めていきたい。
	基本的な生活習慣の定着	2	挨拶指導の継続、月目標の実践化、即時対応を心掛け、児童の基本的な生活習慣の定着に努めた。	3.7	3.6	3.8	○ 本校の合言葉のひとつである「逃げずに踏ん張る」態度についての評価が上がってきている。陸上記録会・マラソン大会等の体育的活動や、音楽会・学習発表会等の文化的活動において、児童一人一人がめあてを持ち、自分の力を発揮しようと一生懸命取り組むことができた。また、教師による場の設定や、活動をやり遂げる喜びや達成感を実感させられるような声掛けも効果的であった。
	逃げずに踏ん張る態度の育成	3	多様な体験活動や根気強くやり遂げる経験を通して、逃げずに踏ん張る態度を育てよう取り組んだ。	3.4	3.7	3.8	● 同じく「逃げずに踏ん張る」態度について教職員の評価がやや低めである。重点的に声掛けや指導を行う中で、より高い水準を目指していることが考えられる。引き続き、本校の校風に沿った、より効果的な指導を続けていきたい。
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	4	学習形態や教具等の工夫、学習習慣づくりを行い、全員が活動して分かる場を設定した。	3.9	3.3	3.8	○ 小規模校、少人数の特性を活かし、個に応じた学習支援を進めたり、話し合い・練り合いの場を工夫したりすることで児童が「分かる」楽しさを感じられるような授業作りに努めた。また、日々の授業に加え「スピーチタイム」や「五七五タイム」を取り入れることで、児童が自分の思いや考えを人前で表現できる機会を増やし、児童のコミュニケーション能力の向上につなげた。
	家庭学習の充実	5	家庭学習の実施状況の把握、宿題の内容の検討、自主勉強の奨励、家庭との連携、個別の対応等により、家庭学習の充実を図った。	3.7	3.2	3.1	○ 学習課題の設定や教具の工夫により、児童の自己肯定感を高められるような授業研究を行っている。
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	6	問題解決的な学習や体験活動を展開し、学ぶ力を高めるよう取り組んだ。	3.7	3.4	3.8	● 「家庭学習の充実」については、児童・保護者ともに低評価である。上筆の通り、家庭の教育力に差があることが課題であるが、タブレットの活用、児童の発達段階に応じた課題の提示等、児童が意欲的に学習に取り組める工夫を考え継続的な指導を行っていききたい。あわせて、学校だよりや学級通信を活用して、家庭教育に関する情報を提供しながら家庭への啓発も行っていく必要がある。
	学力向上推進	7	間違いの多かった問題に類似した問題を準備して、繰り返し学習させ、学力の定着に努めた。	3.7	3.4	3.8	● 引き続き、校内研修において、「わたり」「ずらし」の授業展開の効果的な在り方について考えていく。
豊かな心と健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	8	教育活動全体と道徳の時間の関連を図る年間の計画をもとに、自己の生き方を見つめさせたり、家庭と連携を図ったりしてよりよく生きる態度を養った。	3.3	3.6	3.8	○ 「道徳教育の充実」や「仲間づくり・集団づくり」については、児童・保護者ともに肯定的な評価である。道徳の授業とあわせ、異年齢集団でのキラリン班活動が、豊かな心身の育成につながっていると思われる。また、全教育活動を通して、教職員が児童の表現力及び、社会性を磨き、よりよく生きる態度の育成に努めることができた。
	仲間づくり・集団づくり	9	コミュニケーション能力の育成を図る年間の計画をもとに学級活動や学級経営、キラリン班活動等全校的な活動を充実してよりよい集団づくりに努めた。	3.6	3.6	3.8	○ 本校の伝統として、「元気モリモリ貯金」を行っている。養護教諭からの声掛けや励ましを通して、児童が自分の健康について関心を高め、生活習慣を見直すきっかけとなっている。
	健康づくり・体力づくり	10	元気モリモリ貯金を通して生活習慣の定着や年間を通した心の健康づくり、体育授業の充実やスポーツ大会に向けた練習等を実施することで、体力づくりに取り組んだ。	3.6	3.7	3.2	○ 体育の授業だけでなく、業間や昼休みにも、児童は元気に運動場で体を動かしている。個人差は見られるが、今後も全校遊び等、楽しく運動できる機会を取り入れ、体力向上に努めていきたい。
特別支援教育	特別支援教育の充実	11	校内の支援体制を充実し、全教職員や専門家との連携のもと、一人一人の教育的ニーズに応じて、必要な支援を行った。	3.6	3.6	3.8	○ 小規模校の特性を活かし、全教職員が声を掛けながら、日々、児童を見守り育てることができている。今後も、配慮を要する児童に対して、家庭と連携を図りながら、よりよい支援を続けていけるよう組織的な体制を整えていきたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	12	登下校の安全やマナーに対する指導、家庭・地域と連携した見まもり活動等の充実に努め、安全な登下校の奨励に取り組んだ。	3.7	3.8	3.9	○ 今年度、学校防災教育についての研究を促進していることもあり、「防災教育の充実」について三者とも高評価である。引き続き、防災意識を念頭に置き、学んだ知識や技術を実生活へとつなげていけるような支援をしていきたい。
	防災教育の充実	13	避難訓練や学級活動、教職員研修を充実し、自ら判断し行動し、お互いが力を合わせて命を守り、困難を乗り越えることができる力を育むよう取り組んだ。	3.9	3.9	3.9	○ 本校は、教員7人中6人が防災士の資格を保有しており、地震・火災・不審者等、様々な状況を設定した避難訓練を実施することができている。また、校舎の立地上、最も懸念される土砂災害への備えについても、幼稚園と合同で行うなど、一人一人の防災意識の高さがうかがえる。
	危機管理意識の高揚	14	毎月の「にしだにハート&はーと」や「交通安全・安全点検の日」を中心に、教職員の危機管理意識を高め、教育環境の整備をするとともに、児童の危機意識の高揚に努めた。	3.7	3.8	3.9	○ 学校運営協議会の委員をはじめ、地域・保護者の方々のご支援により、児童の安全が確保できている。登下校の見守りに関して、教職員だけでは目が届かない現状の中、ありがたいことである。今後も、情報を共有しながら児童の「登下校の安全確保」に努めていきたい。
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	15	コミュニティ・スクールの推進の基、地域との協体制を充実し地域・家庭と息の合った教育活動の充実に努めた。	3.7	4.0	3.9	○ 年4回の自然体験教室や稲作活動、三世代交流会等、地域・学校・家庭のつながりが深く、それぞれの活をと通して支援して下さる方々への感謝の気持ち再確認できた。また、親子奉仕作業、日々のグラウンド整備等、環境面でのサポートや、運動会の準備・係・片付け、マラソン大会のコース見守り等の人的面でのサポートに快く賛同し、協力して下さる保護者の方々あっての本校であると実感している。
	情報の共有化	16	児童について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等について、校報、各便り、HP等を活用して地域・家庭との情報の共有化に努めた。	3.9		3.9	○ 学校だよりや学級通信を活用して、児童の学校での様子や活動内容を積極的に家庭に知らせることができた。また、ホームページを充実させることで、よりタイムリーかつ詳細な情報を発信できている。今後、さらに多くの方に閲覧してもらい、本校のよさが伝わるような工夫をしていきたい。
	幼小連携	17	幼稚園と小学校のつながりを深め、子どもたちの生活や学びの基盤を支えられるよう、隣接する幼稚園との連携を大切にし、交流に努めた。	3.9	3.8	3.7	○ 幼稚園との交流については、運動会や学習発表会、マラソン大会等の行事はもちろん、隣接している地の利を活かし普段から気兼ねなく交流できるよう努めている。よい関係の中で、子どもの教育の連続性を保障するとともに、教員同士の専門性を高めた連携ができた。来年度の閉園は、とても残念である。
特色ある学校づくり	「緑の少年隊活動」等を生かした地域とともに歩む教育	18	毎朝のボランティア活動を始めたとする緑の少年隊の活動や各教科等での学習を生かし、自他の命を大切にしたり、身近な環境を大切に気付かせたりするよう取り組んだ。	3.7	4.0	3.9	○ 「緑の少年隊活動」は、本校の特色であり、他校ではできない活動が充実している。教職員はもちろん、児童も様々な活動を通して、環境や生命の大切さに気付くことができた。また、正隊員は4年生以上であるが、1～3年生も準隊員として活動に参加することで、異年齢集団でのよりよい関わりが可能となっている。
		19	学校と家庭と地域とが一体となって取り組む自然体験教室の活性化に努めた。	3.9	3.4	3.6	○ 地域の方の協力を得て、稲作活動やサツマイモ・シイタケ栽培など、本校独自の貴重な体験活動を実施できたことも高評価につながっていると感じる。
施設・設備の充実	I C Tの有効活用	20	一人一台タブレットパソコン等、I C T機器の有効活用に努めた。	3.6	4.0	3.5	● 自然体験教室は年4回実施している。多くの児童や保護者が参加し、季節ならではの貴重な体験ができる充実した活動である。しかし、休日開催ということで、諸事情により参加が難しい児童もいる。また、教職員の減少により、活動への負担が大きいのも事実である。よき伝統を守りながらも、実施方法について改善していくことが今後の課題である。
	学習・生活環境充実への取組	21	人的管理・物的管理・事務処理に留意し、学校全体が、調和と潤いのあるよりよい教育環境となるよう取り組んだ。	3.9	3.8	3.9	○ 東温市は教育機器が充実しており、本校でも各学年の授業において「ワイード」（黒板にパソコンを投影し、操作できる機材）でデジタル教科書を投影して活用したり、効果的に資料を提示したりする学習を行っている。また、一人一台端末（タブレットパソコン）を活用し、課題に応じた調べ学習や、授業の復習をすることが可能となっている。今後は、家庭への持ち帰りの際の活用方法や、より効果的な活用、ルールについて考えていきたい。

※ ゴシックは学校における重点項目、アンダーラインは重点項目に関連する内容